

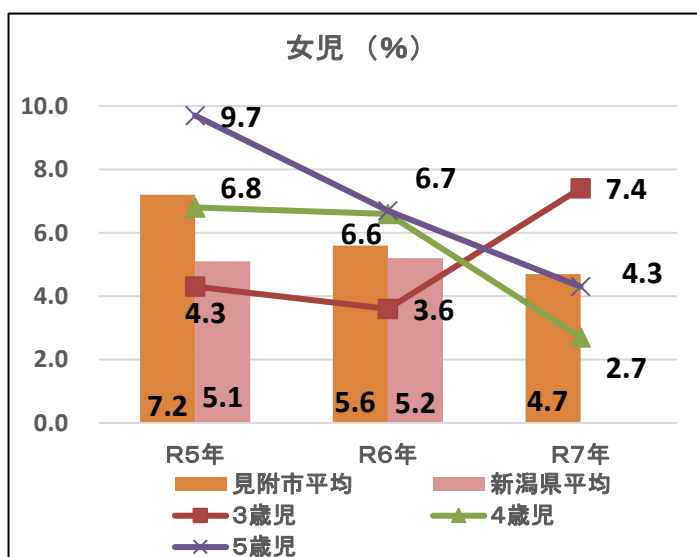
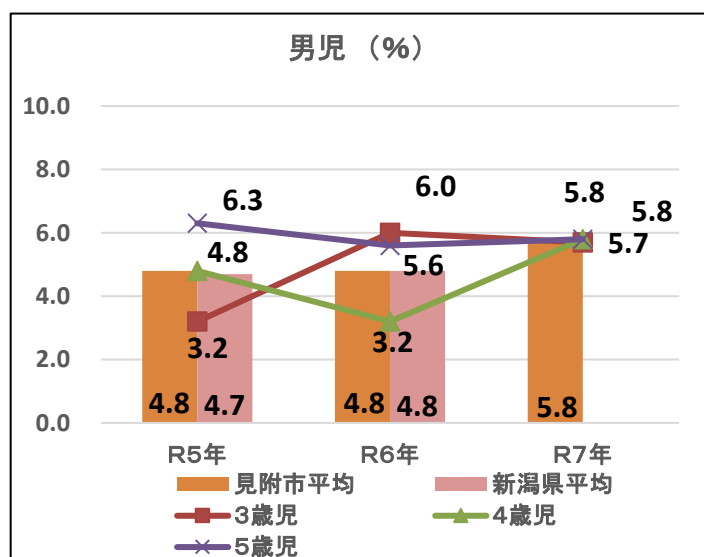
✿ 発育調査の概要

- ① 対象者 市内保育園・認定こども園 3～5歳児 698人
- ② 実施時期 令和7年6月 身体測定
- ③ 肥満度判定区分
- | | |
|--------|---------------|
| 太りすぎ | +30%以上 |
| やや太りすぎ | +20%以上～+30%未満 |
| 太り気味 | +15%以上～+20%未満 |
| ふつう | -15%超 ～+15%未満 |
| やせ | -20%超 ～-15%以下 |
| やせすぎ | -20%以下 |

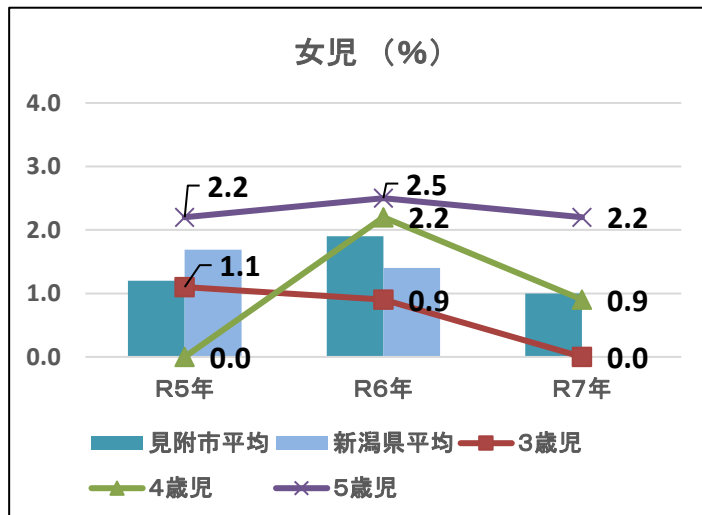
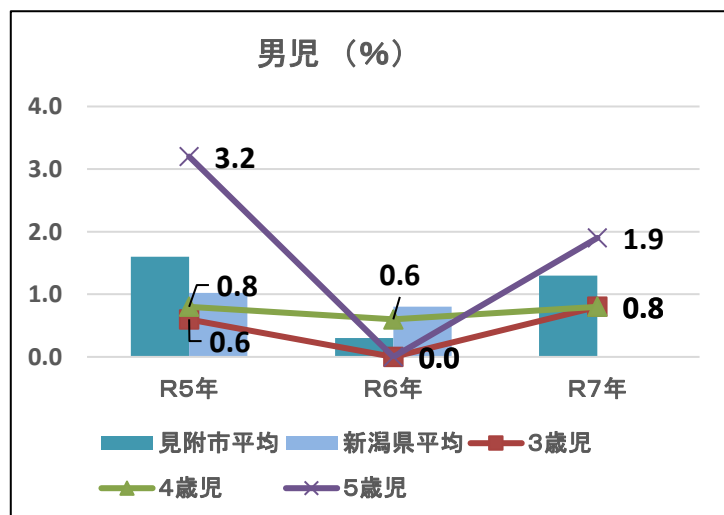
※肥満・やせの判定基準は「日本人小児の体格の評価に関する基本的な考え方」に基づいています。

✿ 結果

【肥満度+15%（太り気味）以上の出現率】



【肥満度-15%（やせ）以下の出現率】



肥満は男児は増加傾向、女児は減少傾向にあります。女児は県平均を上回る状況が続いています。肥満傾向児は5歳～6歳ごろから出現率が増加します。幼児肥満は学童肥満に進展しやすく、年齢があがるほど肥満を解消しにくいとされているため、早めの対策が必要です。また、やせ傾向に対しても早期の食生活および生活習慣の見直し・改善が重要です。